実　技　科　目

教科 No.	51001	授業科目	作曲Ⅰ１～８，作曲Ⅱ１～８	単 位 数	Ⅰ各3単位，Ⅱ各2単位
担当教員	作曲専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	作曲専攻１～４回生	

【授業目標】
独自な音楽世界を創作することを学ぶ。

【授業概要】
下記のとおり

【評価方法】
すべての活動を通して，総合的な評価を行う。

【履修上の注意】
全回生を通して，常時継続的に作品制作，発表を行う。

【教科書】
授業中に適宜指示する

【参考書等】
授業中に適宜指示する

※備考　創作活動と同時に，常に客観的な視野を持てるよう，全回生を通して楽曲分析クラスがあり，実際の音楽創作に有効な繊密な思考法を得ることができる。

授業内容

１．２回生では基礎を徹底的に学ぶ作曲理論（エクリチュール）クラスにおいて基礎を習得しつつ，作品を創作する作曲のプログラムに進む。作曲理論クラスより作曲クラスへの完全移行時期は個人差を考慮し，フレキシブルに選ばれる。

作曲理論クラス〔１．２回生対象〕
高等和声法と対位法・フーガ作曲法を行う。高等和声法は旋律課題及び低音課題を実施することで，より感性に富んだ和声感を養う。主に近代フランスのテキストを用いる。対位法，フーガ作曲法は，まず定旋律に対して１～３つの対旋律を作る，いわゆる２～４声の対位法の技術をきちんと修得した上で，４声の為の学習フーガの制作 を行い，多声音楽の基礎的書式を身に付ける。

作曲クラス〔主に３．４回生対象であるが，作曲理論クラスを修了した場合は，２回生中に移行する。〕
全回生を通し，この大学で可能な限りの創作創域，ピアノソロ作品から管弦楽作品までを含む作品を制作し，それが常に演奏されることを前提に，年間のイベントがプログラムされており，これらのイベントに向け，各自年間のプログラムを組み立てる。 作品の演奏は他専攻の熱意のある協力を得て，質の高い新作演奏が即座に実現できる極めて充実した音楽創造の共同作業を行っている。作曲クラスでは自由に担当教員を選ぶことができ，さまざまな角度から助言を得られるよう共同担任制をとっている。自由な環境とともに高度な自主性をもって，音楽制作を行うことが求められる。

１．全回生対象の学内でのピアノ作品による作曲作品研究発表会
２．３回生以上対象の学内での自由なジャンルの作品試演奏会
３．３回生以上対象の京都市内各地域での，また京都大学との学術交流協定による学外での企画性，独自性に富んださまざまな演奏会での作品発表

教員からのメッセージ

前田　守一：音楽作品に書き込まれた各々の音符には，作曲家の思いがいっぱい込められていると思います。誰でもたやすく読み取れる情報もあれば，いくつかのデータを組み合わせることに よって，初めて読み取れる情報もあります。巨匠と言われる音楽家でさえ，飽きる程接した音楽作品からも新たに発見をすると言います。作曲理論，音楽理論というと，どうにも「地味」「単調」等の感を拭えませんが，名曲と言われる音楽作品から，より多くのことを読み取り，大作曲家と同じ思いを少しでも共有できるとすれば，何ものにも代え難い感動を得られるのではないでしょうか。立場を変え，作曲家をめざす若き作曲専攻の学生は，そのような術を得たとすれば，意のままに操れる魔法の如き技を持ち得たと同じ位の自信にもなるのではないでしょうか。

岡田加津子：本校における作曲専攻は，基本的に和声法，対位法，楽式論，分析法などの西洋音楽の基礎となるものを身につけた上で，現在，我々が作曲によって何を表現しようとしているのか，そしてそれをどのような手段で表現するかを熟考し，試行錯誤し，成長していくための土台を作る場所として，大変恵まれた環境にあると思います。作曲に欠かせない４つの要素，すなわち「書法」「楽器法」「構成力」「個性」を，充分に習得・認識し，それらを将来自由に駆使できるように，常に感性のアンテナを広げ，日々出会うことを何でも作曲に汲み上げるぐらいの気持ちを持って，制作する多くの機会を精力的にこなしていってほしいと思います。

中村　典子：作曲理論の基礎をしっかりと固め，同時に古今の音楽作品が現在まで生き続けているのは何故か，大いなる好奇心をはばたかせてください。細胞の奥底に隠されているその人固有の独自の音楽が輝き出せるよう，各回生毎に楽曲分析を行います。作曲においては，時が経つにつれて深まってゆくような生命溢れる音楽の創造性を追求してゆきます。この４年間に長い人生におけるすべての可能性をひらくことのできる土台をつくり，創造に必要な力を極限まで磨き抜き，今日のすべてがこれからのすべてとなる大切な時を共有し，一緒につくってゆきましょう。

教科 No.	51002	授業科目	楽曲分析１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	中村典子（音楽棟２１３）			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	作曲専攻１～４回生	

【授業目標】
全回生を通し，円卓形式による質疑応答を中心としたクラスで，各々の「分析する能力」の高レヴェルでの獲得を目指す。

【授業概要】
古典から今日まで命脈を保っている優れた音楽作品を，分析的着眼点から展望し，楽曲の細部と全体の構成の有機的関連性，各部分の相互の対照・対応，楽曲の時間的進行をつかさどる原理の発見などを通して，楽曲分析に必要な「思考法」を確実 に身に付ける。 →備考へ

【授業内容】
1. 細目は以下の通り。
2. 楽曲分析とは何か 分析の目的
3. 分析の対象 対象の形態
4. 分析的着眼点 分析時留意点
5. 分析方法検討 分析表作成
6. 楽曲構成 構成要素
7. 形式と様式 区分と細分化
8. 組織と構造 分割と結合
9. 有機的生成 成長過程
10. 反復と差異 変形と結合
11. 対照と対応 密度と動向
12. 顕在と潜在 比較と連関
13. 特徴と性格 相互作用
14. 時間的進行 空間的配置
15. 構成論理 総括

【評価方法】
毎回のクラスでの積極的な参加と分析研究の提出，発表により総合的に評価する。

【履修上の注意】
各回生ごとのクラスとなり，分析を行うチームの一員として高度の自主性が求められる。

【教科書】
授業中に適宜指示する

【参考書等】
授業中に適宜指示する

※備考　１～３回生後期の終了時には，個々の分析能力が最も発揮できる音楽作品を各々研究対象として選定して詳細な楽曲分析研究を提出し，翌年のクラス開始時，互いに分析能力の向上に資する。
４回生後期には，これまで未研究の高度な作品や課題に全員一丸となって分析・研究を行い，将来の分析的研究における自立的助けとする。

教科 No.	51003	授業科目	作曲特別演習１・３	単 位 数	各1単位
担当教員	岡田加津子（音楽棟３０３）			開講学期	前期
履修条件	—		履修学年・専攻等	作曲専攻１回生以上	

【授業目標】
様々なモチーフを展開・発展させる力を養う

【授業概要】
各テーマについての講義と，共通モチーフを用いての受講生各人の作曲，さらにそれらに基づいて意見交換する

【授業内容】
1. オリエンテーション
2. 作品による自己紹介
3. テーマと変奏　1
4. テーマと変奏　2
5. テーマと変奏　3
6. 共通メロディーによる和声づけ　1
7. 共通メロディーによる和声づけ　2
8. 共通和声によるメロディーづくり　1
9. 共通和声によるメロディーづくり　2
10. 共通モチーフによる展開　1
11. 共通モチーフによる展開　2
12. 楽器研究　1
13. 楽器研究　2
14. 「モチーフと展開」試演会
15. まとめ

【評価方法】
各課題における取り組み，及びまとめの試演会における発表により，総合的に評価する

【履修上の注意】
意欲を持って制作に臨むこと

【教科書】
授業中に適宜指示する

【参考書等】
授業中に適宜指示する

教科 No.	51004	授業科目	作曲特別演習２・４	単 位 数	各1単位
担当教員	岡田加津子（音楽棟３０３）			開講学期	後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	作曲専攻１回生以上	

【授業目標】
様々なモチーフから作品を構成する力を養う

【授業概要】
各テーマについての講義と，共通モチーフを用いての受講生各人の作曲，さらにそれらに基づいて意見交換する

【授業内容】
1. 編曲～ Arrangement と Transcription 1
2. 編曲～ Arrangement と Transcription 2
3. 編曲～ Arrangement と Transcription 3
4. 動きと音楽 1
5. 動きと音楽 2
6. 詩と音楽 1
7. 詩と音楽 2
8. 絵画と音楽 1
9. 絵画と音楽 2
10. 映像と音楽 1
11. 映像と音楽 2
12. 楽器研究　3
13. 楽器研究　4
14.「モチーフと展開」試演会
15. まとめ

【評価方法】
各課題における取り組み，及びまとめの試演会における発表により，総合的に評価する

【履修上の注意】
意欲を持って制作に臨むこと

【教科書】
授業中に適宜指示する

【参考書等】
授業中に適宜指示する

教科 No.	51005	授業科目	総譜視奏１～２	単 位 数	各1単位
担当教員	増井信貴（音楽棟２０４），山上友佳子（非常勤）			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	作曲専攻３回生	

【授業目標】
ピアノでの視奏を通して楽曲把握を深め，作曲に必要なオーケストレーション等の構成法を学び，読譜能力を高める。

【授業概要】
毎回テーマとなる楽曲を定めピアノで視奏する。楽曲把握や分析能力なども含めて作曲の糧となるよう，管弦楽曲においては視奏するパート選択も理解の核心となるように各自が考えて弾く。併せてピアノ演奏能力の向上も目指す。

【評価方法】
年２回の試験および平常の出席状況により総合的に評価する。

【履修上の注意】
十分に予習をして臨むこと。無断欠席は認めない。

【教科書】
Preparatory Exercises in Score Reading（Oxford University Press）

【参考書等】
必要に応じて、その都度適宜参考文献等を紹介する。

教科 No.	52001	授業科目	指揮１～８	単 位 数	各3単位
担当教員	増井信貴（音楽棟２０４）			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	指揮専攻１～４回生	

【授業目標】
指揮者として必要な指揮法によるテクニック，リハーサルテクニックを個人レッ ンに加え，本学のオーケストラや合唱，オペラ等に参加することで習得する。

【授業概要】
毎週の個人レッスン（交響曲等)。週２回のオーケストラへの実習参加。年１回上演されるオペラの参加など。

【評価方法】
実技試験による。

【履修上の注意】
非常に高い習得意識が必要。

【教科書】
オーケストラスコア

【参考書等】
音楽理論書など

※備考　教員からのメッセージ
本学では実習の機会（オーケストラの指揮をする）が多いので，限りあるチャンスを自分の力とするようにして下さい。

教科 No.	52002	授業科目	オーケストラ実習１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	増井信貴（音楽棟２０４）			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	指揮専攻１～４回生	

【授業目標】
弦・管・打楽器による組織的で大規模な合奏を通じて，オーケストラにおける音の響きや音色の多彩な変化またはプレス，ボーイング，リズムの作り方や音楽の表現法，演奏効果などを学ぶことを目標とする。

【授業概要】
管弦楽作品数曲を授業課題とし，合奏または弦楽器と管・打楽器によるパート合奏を行う。また授業に必要な楽譜の製作やセッティング，リセッティングなどを学生自ら行うことにより，プロのオーケストラの自覚と責任を持つことを学ぶ。

【評価方法】
平常点として評価するが，授業への取組み態度などは大変重要な要素である。

【履修上の注意】
欠席は認めない。やむを得ない理由の時も「欠席・早退・遅刻届」を必ず事前に提出のこと。

【教科書】
各セクションの係が製作する。

【参考書等】
授業課題のスコア・ＣＤなど

教科 No.	52003	授業科目	総譜視奏１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	増井信貴（音楽棟２０４），山上友佳子（非常勤）			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	指揮専攻１～４回生	

【授業目標】
ピアノでの視奏を通して楽曲の理解を深め，指揮に必要なオーケストレーションの把握や読譜能力を高める。

【授業概要】
毎回テーマとなる管弦楽曲を定め，ピアノで視奏する。読譜能力や楽曲把握などを含め，指揮者としての基礎的な糧となるよう，総譜から確実に実音のイメージをつかむ。併せてピアノ演奏能力の向上も目指す。

【評価方法】
年２回の試験および平常の出席状況により総合的に評価する。

【履修上の注意】
十分に予習をして臨むこと。無断欠席は認めない。

【教科書】
指揮実技で使用するオーケストラスコア

【参考書等】
必要に応じて、その都度適宜参考文献等を紹介する。

教科 No.	52004	授業科目	楽曲分析１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	中村典子（音楽棟２１３）			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	指揮専攻１～４回生	

【授業目標】
各回生による円卓形式による質疑応答を中心としたクラスで，各々の「分析する能力」の高レヴェルでの獲得を目指す。

【授業概要】
古典から今日まで命脈を保っている優れた音楽作品を，分析的着眼点から展望し，楽曲の細部と全体の構成の有機的関連性，各部分の相互の対照・対応，楽曲の時間的進行をつかさどる原理の発見などを通して，楽曲分析に必要な「思考法」を確実に身に付ける。各回生後期終了時には各々研究対象を選定して詳細な楽曲分析研究を提出する。

【評価方法】
「和声法」「対位法（指揮）」等と密接な関連性をもつ。

【履修上の注意】
毎回のクラスでの積極的な参加と分析研究の提出，発表により総合的に評価する。

【教科書】
授業中に適宜紹介する。

【参考書等】
各回生ごとのクラスとなり，分析を行うチームの一員として高度の自主性が求められる。

教科 No.	52005	授業科目	和声法（指揮）１～４	単 位 数	各1単位
担当教員	前田守一（音楽棟３１２）			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	指揮専攻１・２回生		

【授業目標】
指揮専攻学生を対象とし，音楽作品を理解する上で，より高度な和声感を養うために，和声法の専門的な個別指導を行う。

【授業概要】
具体的な進め方については，おのおのの進度を考慮。相談のうえ決定する。

【評価方法】
総合的に評価する。

【履修上の注意】
おのおの決めたプログラムに沿って，課題に取り組む。

【教科書】
授業中に適宜，指示，紹介する。

【参考書等】
授業中に適宜，指示・紹介する。

※備考　「対位法（指揮）１～４」と関連性をもつ。

教員からのメッセージ
和声課題の実施を中心としつつ，適宜音楽作品を用いて具体例にも接してみたい。

教科 No.	52006	授業科目	対位法（指揮）１～４	単 位 数	各1単位
担当教員	前田守一（音楽棟３１２）			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	指揮専攻１・２回生		

【授業目標】
指揮専攻学生を対象とし，多声音楽の基礎的書式術を身に付けるため，対位法の個別指導を行う。

【授業概要】
具体的な進め方については，おのおのの進度を考慮。相談のうえ決定する。

【評価方法】
総合的に評価する。

【履修上の注意】
おのおの決めたプログラムに沿って，課題に取り組む。

【教科書】
授業中に適宜，指示，紹介する。

【参考書等】
授業中に適宜，指示，紹介する。

※備考　「和声法（指揮）１～４」と関連性をもつ。

教員からのメッセージ
科目の性格上，ほぼ対旋律を作ることに終始することになるが，できれば音楽作品を通し，具体例に接してみたい。

教科 No.	53001	授業科目	ピアノ１～８	単 位 数	各3単位
担当教員	ピアノ専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	ピアノ専攻１～４回生	

【授業目標】
ピアノ実技，個人レッスンを主体としてピアノ音楽の演奏のための重要な技術を習得する。ピアノ演奏のための基礎技術の整理と習得。作曲家別，時代別音楽様式の理解とそれらの楽曲分析。演奏表現のための基礎理論の理解。

【授業概要】
ピアノ１：導入の部分として各個人の技術程度と個性に応じた内容のレッスンを行う。　ピアノ２：バッハを含むバロック様式作品の理解と習得。
さまざまな練習曲による基礎的技術の習得。　ピアノ３：メンデルスゾーン，シューマン，ショパン，ブラームスを含むロマン派様式の作品の理解と習得。1945 年以降の作品を含む近・現代作品の理解と習得。→備考へ

【評価方法】
各年次に与えられた課題の演奏試験を行い，それによって評価する。

【履修上の注意】
病気や故障に注意し，各個人の能力を考慮し計画的な学習を心がける。

【 教 科 書 】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　ピアノ４：さまざまなソナタ作品の理解と習得。
ピアノ５：規模の大きな作品，あるいはさまざまな曲によるプログラム編成の理解と修得 。 ピアノ６：ピアノ協奏曲作品の理解と習得。
ピアノ７及び８：四年間の学習の集大成として，広範囲に渡るピアノ作品から各個人の特性等を考慮し選択された任意の作品の理解と習得。

他の科目との関連性

優れた演奏をするには人間性を深めることも重要である。したがって，音楽関連以外の教科（美学，哲学など）も積極的に履修することを推奨する。

教員からのメッセージ

阿部裕之：生涯使えるピアノ演奏のための基礎を重視して欲しい。タッチのための基本的技術，様々な音色を表現するタッチ，テンポのコントロール，作曲家の様式の理解，芸術への広範囲な関心を持ち各個人の人間性を深めて欲しい。

坂井千春：人生とは，卒業してからのほうが長いものです。そして芸術の探求に終わりはありません。独り立ちしてからも正しい理解が続けられるようになるための，音楽のあらゆる基礎を学ぶこと，音楽を通して密度の濃い人生に触れること，振り返っても実りある大学生活だったと思えるようなレッスン時間を，皆さんと分かち合いたいと思います。

砂原 悟：私たちのもっとも大切な使命は，偉大な先人たちの作品をより深く理解し，演奏を通してそれを伝えていくことだと思います。精神面と物理面のバランスの取れた演奏家になっていただきたいと切に願っています。

上野 真：CD，DVD，ネットなどで音楽がいつでも，幾らでも聴くことの出来る現代，どのような「音楽作り」がふさわしいのか…10 代，20 代の学生の皆さんは，なるべくバロックから近現代までの巾広いレパートリーを勉強する事をまず勧めたいと思います。また様々な練習曲，教則本などにも目を通し，自分に合った練習の方法を見つける事が必要です。国，時代，作曲家，個々の作品毎の様式の違いを感じ取る審美眼を養い，理想的な演奏スタイルを模索して欲しいと願っています。

野原みどり：皆さんにはただピアノを上手に弾けるだけではなく，芸術家になって欲しい。その為に必要な豊かな感受性を育むこと，それを表現する為の無理の無い合理的な奏法を身に付けることが重要です。学ぶことは意欲さえあればいつでもどこでも出来るものですが，一番環境の整った勉強に専念できる今を大切に，様々なことに関心を持ち，自分を磨いて行って欲しいと思います。

教科 No.	53002	授業科目	ピアノ公開演奏	単 位 数	2単位
担当教員	ピアノ専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期
履修条件	—	履修学年・専攻等	ピアノ専攻３回生		

【授業目標】
公開で演奏することにより，聴衆の前での演奏を体験し，ピアノ演奏への理解をより深める。

【授業概要】
１つあるいは複数の作品で 25 分程度のプログラムを作成し，個人レッスンを通して演奏表現の実践的な方法を習得する。また聴衆の前での演奏時に起こる問題点を確認し，その対処法を習得する。

【評価方法】
学内の講堂で公開の演奏試験を行い，それによって評価する。

【履修上の注意】
病気や故障に注意し，各個人の能力を考慮し計画的な学習を心がける。

【教科書】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　優れた演奏をするには人間性を深めることも重要である。したがって，音楽関連以外の教科（美学，哲学など）も積極的に履修することを推奨する。

教科 No.	53003	授業科目	ピアノ重奏１～４	単 位 数	各1単位
担当教員	ピアノ専攻非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	ピアノ専攻１・２回生		

【授業目標】
ピアノ同士のアンサンブルをすることで，ピアノ独奏では得られない音楽の味わいや豊かな音響を体験し，より深いピアノ音楽の理解の帯助とする。

【授業概要】
個人レッスンを通してピアノ重奏のための基礎を学び，さらに適宜な曲を選択し演奏表現の実践的な方法を習得する。またアンサンブルを行う場合の問題点の確認とその対処法を習得する。

【評価方法】
各年次に制限時間内のピアノ重奏曲を適宜に選択し，演奏試験を行い評価する。

【履修上の注意】
病気や故障に注意し，各個人の能力を考慮し計画的な学習を心がける。

【教科書】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　優れた演奏をするには人間性を深めることも重要である。したがって，音楽関連以外の教科（美学，哲学など）も積極的に履修することを推奨する。

教科 No.	53004	授業科目	ピアノ伴奏法１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	ピアノ専攻専任教員			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	ピアノ専攻１～４回生		

【授業目標】
他の楽器あるいは声楽を伴奏することによって，幅広い音楽の形態を経験し，アンサンブルの技術を学ぶ。

【授業概要】
ピアノ専攻教員及び，他の楽器や声楽専攻教員のレッスンを通して，伴奏のために必要な演奏法を習得する。 [器楽の伴奏] アンサンブルの重要性，及び伴奏としての役割の認識。伴奏相手との音楽の呼吸のあわせ方。音量の調和バランスの取り方。 →備考へ続く

【評価方法】
平常点及び，他の専攻学生の試験時に伴奏を行い，その演奏を評価する。

【履修上の注意】
病気や故障に注意し，各個人の能力を考慮し計画的な学習を心がける。

【 教 科 書 】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　[声楽の伴奏] アンサンブルの重要性，及び伴奏としての役割の認識。歌詞の理解。 歌詞内容を表現するためのタッチのコントロール。伴奏相手との音楽の呼吸のあわせ方。音量の調和バランスの取り方。
優れた演奏をするには人間性を深めることも重要である。したがって，音楽関連以外の教科（美学，哲学など）も積極的に履修することを推奨する。

教員からのメッセージ

阿部裕之 : ピアノ以外の楽器や声楽と接する貴重な機会である。伴奏することによって，音楽を総合的に聴き把握する能力を高めることが出来ます。そしてそれは専攻実技に対しても意義深い糧となるでしょう。

坂井千春 : 歌の伴奏では歌詞の内容をよく理解し，自分も歌えるようにすること。 オペラのアリアの場合は全体のストーリーとその場面設定を知ること。 弦楽器や管楽器のボーイングやタンギングをよく理解し，同じメロディーは同じように響くよう努力すること。管弦楽伴奏の編曲の場合は，スコアを研究し，オーケストラの響きに近くなるよう努めること。相手の呼吸，バランスに注意すること。すべてピアノのソロにも通じる重要なことです。

砂原 悟 : 伴奏や室内楽を通して，ピアノという楽器の特質を再認識できると思います。ピアノではどうしてもできないこと，逆にピアノでなくてはできないこと。パートナーをよく聴きましょう。イデー（観念）を具現化する技術が磨かれます。

上野 真 : ピアノ以外の楽器や声楽を伴奏し，仲間と一緒に演奏，勉強する事で，室内楽，オーケストラや合唱音楽への理解も深め，総合的な音楽性を養う事に努めて欲しいと思います。それがピアノ・ソロを演奏する際の表現にも直接繋がってくる筈です。

野原みどり : 普段独りで演奏することの多いピアニストにとって，他人と音楽を創り上げる共同作業はとても大切で有益なことです。異なる楽器と一つの作品を仕上げるということを通して，ソロの曲の中にもそれらピアノ以外の楽器や演奏形態の要素が存在するということ，どの楽器を媒体としていても音楽というものは普遍的なものであることを体感することは，更に音楽に対する理解を深め，ひいてはそれが自らの演奏に反映されることでしょう。

教科 No.	53005	授業科目	学内リサイタル（ピアノ）	単 位 数	3単位
担当教員	ピアノ専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期
履修条件	—		履修学年・専攻等	ピアノ専攻４回生	

【授業目標】
成績優秀者数名が，長時間のプログラム（70 分）を計画作成し，公開で演奏する。長時間のプログラムを演奏することで，さまざまな作品への対応や演奏家として必要な集中力の持続の会得を目標とする。

【授業概要】
個人レッスンを通し，長時間に渡るプログラムの決定法や選曲のバランスを学ぶ。また様々な作品を弾き分けるための演奏様式あるいは技術的問題の解決，長時間のプログラムをこなすための集中力のペース配分や強化法を習得する。

【評価方法】
学内の講堂で公開の演奏試験を行い，それによって評価する。

【履修上の注意】
病気や故障に注意し，各個人の能力を考慮し計画的な学習を心がける。

【教科書】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　優れた演奏をするには人間性を深めることも重要である。したがって，音楽関連以外の教科（美学，哲学など）も積極的に履修することを推奨する。

教科 No.	53006	授業科目	ピアノ（副科）１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	ピアノ専攻非常勤嘱託及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	ピアノを除く全専攻１～４回生	

【授業目標】
ピアノを履修することで，音楽の素養を広げ深める。また専攻実技の伴奏に使われるピアノの理解を通して，専攻実技楽曲の立体的な把握を助長する。

【授業概要】
ピアノ（副科）１～４：ピアノの演奏のための基礎を習得。姿勢，指の形，指の動作，運指法などを習得。音階，アルペジオなど基礎的な音型の学習。バッハ，ベートーヴェン，モーツァルト，ショパン，メンデルスゾーンなどの作品の学習。→備考へつづく

【評価方法】
年２回の試験で課題曲を演奏し，評価する。

【履修上の注意】
各個人，様々な段階があるので，指導教員とよく相談し計画的に履修すること。

【教科書】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　ピアノ（副科）５及び６：伴奏法の学習。チャイコフスキー，ドビュッシー，ラヴェル，バルトークなどの作品の学習。　ピアノ（副科）７及び８：より高度な作品の学習。

教科 No.	53007	授業科目	チェンバロ（副科）１～４	単 位 数	各1単位
担当教員	春山 操（非常勤），中野振一郎（非常勤）			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	作曲・指揮・ピアノ・音楽学専攻３・４回生		

【授業目標】
チェンバロ奏法：主にバロック期のドイツやフランスのチェンバロ曲を取上げ，楽器の構造を知った上での演奏スタイルを考える。

【授業概要】
副科１・２は主に担当教員の選んだ曲集より数曲を取上げ，チェンバロとピアノのタッチの違いを体得する。特にアーティキュレーションに重きを置いて学ぶ。また，さまざまな舞曲のリズムを正しく表現する技法を習得する。３・４はそれぞれの技術に応じた作品を自身で選び，かなり長期間同じ曲を深く掘り下げる。学年末に実技試験を行う。

【評価方法】
平常点と実技試験による。

【履修上の注意】
各個人，様々な段階があるので，指導教員とよく相談し計画的に履修すること。

【教科書】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

教科 No.	54001	授業科目	弦楽１～８	単 位 数	各3単位
担当教員	弦楽専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	弦楽専攻１～４回生		

【授業目標】
個人レッスンを主体として弦楽器の演奏法を演奏技術，楽曲分析などから多角的に検討し，プロフェッショナルな演奏家としての基礎を作る。

【授業概要】
弦楽１：各個人の能力と個性に応じて，基礎技術の整理と習得　弦楽２：ハイドン，モーツァルトを含む古典派音楽の理解と習得　弦楽３：バッハの無伴奏曲などバロック様式作品の理解と習得　弦楽４：ロマン派から近現代に至る弦楽器のための作品の理解と習得　→備考へつづく

【評価方法】
実技試験の成績により評価する。

【履修上の注意】
各個人の能力と個性に応じて計画的な学習を心がける。

【教科書】
各教員が個別に指定する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　弦楽５＆６：弦楽器のための協奏曲とオーケストラ伴奏による独奏曲の理解と習得。　弦楽７＆８：４年間の集大成として，広範囲に渡る弦楽器のための作品から各個人の能力と個性に応じて選択された任意の作品の理解と習得

教員からのメッセージ

上村　昇：将来プロの演奏家として成長し続け，同時に次の世代を適切に指導，育成できる能力を身につける事を目標とする。

四方恭子：作曲家の意図を楽譜から読みとる事を勉強し，それを表現できるための右手，左手のテクニックを身につけて欲しいと思います。

豊嶋泰嗣：ソロのみならず，アンサンブルにも積極的に参加してバロックから現代まで幅広いレパートリーの習得を目指してほしいと思います。

教科 No.	54002	授業科目	ヴィオラ（副科）１～６	単 位 数	各1単位
担当教員	平田泰彦（非常勤），山本由美子（非常勤）			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	弦楽専攻（ヴァイオリン）２～４回生		

【授業目標】
２回生：ヴィオラ演奏の基礎的な技術を学ぶ。　３回生：２回生で履修したヴィオラ演奏法をさらに習得する。
４回生：ヴィオラ１～４を履修したものが，さらに高度なヴィオラ演奏法を習得する。

【授業概要】
２回生:週30分の個人レッスンのほかに，２回生の一年間はオーケストラと弦楽合奏でヴィオラ・パートを受け持つ事によって，ヴィオラ演奏を習得する。
３・４回生：週 30 分の個人レッスンでヴィオラ演奏をさらに習得する。

【評価方法】
学年末の試験の成績によって評価する。

【履修上の注意】
受講希望者が多い場合には２・３回生を優先する。

【 教 科 書 】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　他の科目との関連性：オーケストラ，弦楽合奏，室内楽

教科 No.	54003	授業科目	弦楽（副科）１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	弦楽専攻専任教員			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	作曲・指揮・音楽学専攻１～４回生		

【授業目標】
弦楽器演奏の基礎的なテクニックを学ぶ。

【授業概要】
週 30 分の個人指導による。個人指導については，大学院音楽研究科の学生が補佐する。

【評価方法】
授業での平常点。

【履修上の注意】
各個人，様々な段階があるので，指導教員とよく相談し計画的に履修すること。

【 教 科 書 】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　教員の受け持ち時間数，使用可能な楽器の有無等によって，履修できない場合もある。

教科 No.	54004	授業科目	学内リサイタル（弦楽）	単 位 数	3単位
担当教員	弦楽専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	弦楽専攻４回生		

【授業目標】
習得した専門技術の総合的実習

【授業概要】
４回生次に，６０分程度のリサイタルを行う。履修については，担当教員に事前に相談のうえ，弦楽専攻専任教員に申請し，専攻の了承があった者に限る。

【評価方法】
演奏の成績により評価し，単位を与える。

【履修上の注意】
ヴァイオリン専攻生はプログラムにバッハの無伴奏曲を一曲と，パガニーニのキャプリスを含むこと。

【 教 科 書 】
各教員が個別に指定する。

【参考書等】
各教員が個別に指定する。

教科 No.	55001	授業科目	管・打楽１～８	単 位 数	各3単位
担当教員	管・打楽専攻専任教員および非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—		履修学年・専攻等	管・打楽専攻１～４回生	

【授業目標】
管楽器・打楽器演奏家としての演奏能力を身につけるとともに，必要な知識を習得する。各学年の目標は備考参照

【授業概要】
各楽器専門楽器の教員からの個人指導による実技レッスン。授業内容，授業時間割は担当教員と個別に相談の上で決定する。各学期終了時に実技試験があり，前期は８分以内，後期は 10 分以内，最終年次は前期 10 分，後期 30 分以内のソロ曲，またはソロに準ずる曲（協奏曲，ソナタ等）を演奏する。伴奏が必要な場合はピアノによるものとする。

【評価方法】
実技試験による。

【履修上の注意】
レッスンに向けて事前の個人練習，個人研究が非常に大切です。

【 教 科 書 】
担当教員と個別に相談の上，各人の進度と適性を考慮し決定。

【参考書等】
担当教員と個別に相談の上，各人の進度と適性を考慮し決定。

※備考　１－２ 教員との個人面談によって研究方針を定め，基礎的な技術と知識を習得する。
３－４ 古典的作品演奏を中心に基礎的な技術と知識を確立する。
５－６ １９世紀から近代にかけての作品演奏を中心に高度な演奏技術と知識を習得する。
７－８ 幅広い年代の作品を演奏研究し，演奏家としてキャリアをスタートするに ふさわしい演奏技術と知識を習得する。

他の科目との関連性

演奏にはその人の全てが表れます。あらゆる領域での陶冶が必要です。

教員からのメッセージ

大嶋義実（木管楽器）：芸だけでは飽きられます，技術だけでは決まったことしかできません。芸と術を合わせ持った奏者の育成を目指します。

呉　信一（金管楽器）：ソリスト教育だけではありません，「和」すなわち金管楽器特有のアンサンブルの重要性にも！

山本　毅（打楽器）：基礎訓練はいくらやってもやりすぎにはなりません。まずは土台を造り固めましょう。また，常に目的意識を持った練習が大切です。

教科 No.	55002	授業科目	管・打楽（副科）１～８	単 位 数	各1単位
担当教員	管・打楽専攻専任教員および非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	作曲・指揮・音楽学専攻１～４回生		

【授業目標】
管楽器・打楽器の実技個人レッスンによって管楽器・打楽器の特性を知るとともに，管楽器・打楽器演奏を経験する。

【授業概要】
フルート，オーボエ，クラリネット，ファゴット，トランペット，ホルン，トロンボーン，テューバ，打楽器の中から一つを選択し個人レッスンを受ける。初心者でも可。楽器は自分で用意すること。前期・後期を通して同じ楽器で１年間履修すること。

【評価方法】
平常点による

【履修上の注意】
レッスンに向けて事前の個人練習，個人研究が非常に大切です。

【教科書】
担当教員と個別に相談の上，各人の進度と適性を考慮し決定。

【参考書等】
担当教員と個別に相談の上，各人の進度と適性を考慮し決定。

※備考　教員の受け持ち時間数，使用可能な楽器の有無等によって，履修できない場合もあるので，登録前に必ず教務学生課で相談すること。

教科 No.	55003	授業科目	学内リサイタル（管・打楽）	単 位 数	3単位
担当教員	管・打楽専攻専任教員および非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	「管・打楽６」の専攻実技試験で４位以内であること	履修学年・専攻等	管・打楽専攻４回生		

【授業目標】
ソロリサイタルを開催を通じ独奏者としての資質を確立する

【授業概要】
担当教員の指導の下に独奏曲によるソロリサイタルを開催する。演奏時間は休憩，出入り，セッティングを除いて 60 分。

【評価方法】
該当リサイタルを試験とする。 独奏者としての資質を確立したと判断される場合にのみ単位認定する。

【履修上の注意】
履修の条件のとおり

【教科書】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　「管・打楽７・８」と並行履修すること

教科 No.	56001	授業科目	声楽１～８	単 位 数	各3単位
担当教員	声楽専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	声楽専攻１～４回生		

【授業目標】
個人レッスンを主体として，声楽の基礎技術，及び演奏表現の基礎技術を習得する。作曲家別，時代別の音楽様式，及びテキストを研究し，楽曲の理解を深める。習得した演奏技術を生かし，楽曲の理解と表現を深める。

【授業概要】
声楽１及び２　歌曲を主な題材として声楽の基礎技術を習得する。
声楽３及び４　基礎技術の更なる習得と共に楽曲の理解を深める。
声楽５及び６　規模の大きな楽曲に取り組み，演奏技術の向上を目指すと共に作品の理解を深める。
声楽７及び８　広範囲な楽曲作品から各人の特性等を考慮し選択された作品に取 り組み，理解し，演奏表現を深める。

【評価方法】
各年次に演奏試験を行い，それによって評価する。

【履修上の注意】
病気や故障に注意し，各人の能力，個性を考慮して計画的な学習を心がける。

【 教 科 書 】
指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。

※備考　優れた演奏を行うには人間性を深めることも大変重要であるので，音楽関連の教科 はもちろん，それ以外の教科（美学，哲学等）の積極的な履修を推奨する。

教員からのメッセージ

折江　忠道：歌に欠かせないもの・・・体力，気力，完成，大いに切磋琢磨して下さい。

小濱　妙美：音楽に国境なし，豊かな精神力と健全な体力を養いピュアなハートで美しい歌を歌い世界に羽ばたきましょう。

北村　敏則：個性と基本を軸に声楽的表現の技術と感情のバランスを共同調整作業していきたいと思います。

日紫喜恵美：歌うことは，究極のアナログであることを誇りに，体も心も知識も，共に磨いていきましょう。

上野　洋子：癖のない発声，流れる呼吸，ピュアな心，前向きな気持ちで『発展する声楽』を目指しましょう。

教科 No.	56002	授業科目	声楽（副科）１～４	単 位 数	各1単位
担当教員	声楽専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	声楽以外の全専攻３・４回生		

【授業目標】
声楽専門実技の基礎を個人レッスン形式で習得する。

【授業概要】
発声技術及び歌唱技術の教授を，学生の学習進度に合わせて基礎から行う。年度末に実技試験を課す。

【評価方法】
年度末に試験を行い，それによって評価する。

【履修上の注意】
「声楽（副科）３・４」の履修は，「声楽（副科）１・２」を履修した学生の中で成績優秀な学生に認められる。

【教科書】
担当教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
担当教員の指示により適宜選択する。

教科 No.	56003	授業科目	学内リサイタル（声楽）	単 位 数	3単位
担当教員	声楽専攻専任教員及び非常勤講師			開講学期	後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	声楽専攻４回生		

【授業目標】
演奏家を目指す学生が演奏会の機会を体験し，資質，能力の向上をはかる。

【授業概要】
担当教員の指導のもとに，学外に公開される演奏会を開催し，定められた時間内で演奏を行う。

【評価方法】
演奏に対して行われる声楽実技担当教員の合議により評価する。

【履修上の注意】
４回生前期の期末実技試験の成績優秀な学生にのみ，履修が認められる。

【教科書】
担当教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】
担当教員の指示により適宜選択する。

教科 No.	57001	授業科目	室内楽１～６	単 位 数	各1単位
担当教員	室内楽担当教員			開講学期	前期・後期
履修条件	—	履修学年・専攻等	ピアノ，弦楽，管・打楽専攻２回生以上		

【授業目標】
室内楽により合奏（アンサンブル）の基礎を学ぶ。

【授業概要】
ソナタを除く二重奏～八重奏程度の室内楽曲を演奏・研究することによって，アンサンブルにおける基礎的能力の習得を目的とする。

【評価方法】
1 年間のレッスン受講状況により，平常点で評価する。

【履修上の注意】
受講登録時に配布する注意事項をよく読む。

【 教 科 書 】
グループにより適宜選択する。

【参考書等】
指導教員の指示により適宜選択する。